

シンポジウム「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」を開催

自然が織りなす景観と豊かな自然の恵みが魅力の日高地域において、地域で活躍する挑戦者に登壇いただき、観光と地域づくりについて地域の方々と一緒に考える機会として、シンポジウム「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」を開催。

- 日時 令和7年8月5日(火) 15:00-17:00
- 会場 浦河ウエルントンホテル 2階 (WEB配信併用)
- 参加者数 計211人 (会場：107人、WEB：104人)

プログラム

- 基調講演：資源を魅力に変える～これからの観光地域づくりに求められる3つの視点～
石黒 侑介氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授)
- パネルディスカッション：挑戦者と共に考える持続可能な観光と地域づくり
【コーディネーター】石黒 侑介氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授)
【コメンテーター】清野 信也氏 (北海道運輸局観光部 次長)
【パネリスト】 鈴木 宏紀氏 (自然考房 Nature Designing 代表)
千本木 倫子氏 (浦河町地域おこし協力隊)
山田 桜子氏 (株式会社NEPKI 代表)
橋本 勝司氏 (ぼると・みついし 代表)

基調講演 資源を魅力に変える ～これからの観光地域づくりに求められる3つの視点～ 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授 石黒 侑介氏

■ 資源と魅力は何か違うか

- ・観光アトラクションは核(食べ物・自然など)とマーカー(価値を伝える言葉・情報)から構成され、核そのものの価値よりマーカーが重要になる。
- ・日高エリアで「人を動かす魅力を考える上では、旅行動機と直結するもの、ついでに立ち寄りもの、当地を訪れて初めて認知するもの、といった観光アトラクションの階層構造を理解し、地域の資源をアトラクションとして設計することが必要。

■ マーカー(価値を伝える言葉・情報)を可視化する

- ・マーカーを旅行者に伝えていく上では、イメージの刷り込みが重要。観光とは直接関係の無いところで日高エリアの「有機的イメージ」をつくり込んだ上で、人を魅了できる「誘導的なイメージ」を打ち込むことが必要。
- ・ターゲットが「日高のイメージ」をどのように描いているかを把握し、どのようなイメージ形成が必要で、何を打ち出していくべきかを戦略立てて行うことが重要。

■ 消費者が「変わる」体験づくり

- ・近年は、消費志向が「モノ消費」から「コト消費」に変化しており、人々は自分が「変わった」ということに対して価値を感じて対価を支払っている。日高エリアに来る前後で、旅行者が「変わった」と思えるようなプログラム・体験を設計することが重要。



パネルディスカッション 挑戦者と共に考える持続可能な観光と地域づくり

- 鈴木 宏紀氏 (自然考房 Nature Designing 代表)
 - ・観光客に来てもらっても、周辺に店が無かったり、遅い時間まで開いていないことでマイナスイメージになる。宿泊施設だけでなく、飲食店、観光インフラなどの施設整備も必要。
 - ・日高には観光に関わる人がまだまだ少ないことから、観光事業者、行政関係者が日ごろの交流を通して、顔が見えるネットワークを築いておくことが必要。
- 千本木 倫子氏 (浦河町地域おこし協力隊)
 - ・浦河町は馬に関わっている人が多い一方、観光客と関わる機会が少ないことが課題。ファンが増えれば馬産業の将来のためにもなるので、両者のすり合わせが必要。
 - ・馬愛好家はSNSなどでの情報発信力が非常に高い。地域もその情報発信の影響力をうまく活用していくことが重要。
- 山田 桜子氏 (株式会社NEPKI 代表)
 - ・二風谷ではアイヌの工芸品を学ぶために移住してくる若者が増加してきているが、将来的に地域をどうしていきたいかというビジョンを共有できていないことが課題。
 - ・「日高に行こう」と思ってもらえるイメージづくりと情報発信、それを企画するネットワークの強化が重要。
- 橋本 勝司氏 (ぼると・みついし 代表)
 - ・日高には馬を目的とした観光客は来るが、その他の目的で日高に来る観光客が少ない。地域が持続するため、地元だけでなく観光客にも来てもらえるメニューを提供していきたい。
 - ・日高地域の情報発信に関して十分な連携が取れておらず、観光関係者間で連携していくことが必要。
- コメンテーター 清野 信也氏 (北海道運輸局観光部 次長)
 - ・来訪者を通じて、地域への誇りや愛着を再認識することも観光の重要な意義の一つ。
 - ・観光による持続可能な地域づくりや仲間づくり、行政の巻き込みを行うためには、地域でしっかりと話をしていくことが原点。また、感覚だけではなくデータに基づく分析が重要。
- コーディネーター 石黒 侑介氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授)
 - ・観光はそれ自体が目的ではなく、外部の目線を使って地域を見つめなおす・繋ぎなおすためのツールである。教育やファンづくりも、観光のあり方の一部であると再認識。
 - ・日高地域には様々な挑戦者がいるため、地域の中でネットワークができれば、さらに大きな取り組みができるようになるのではないかと。

